



日建設計コンストラクション・マネジメント



清藤 幹雄氏
 日建設計コンストラクション・マネジメント
 副社長執行役員

清藤 幹雄(せいどう・みきお)氏：1995年東京工業大学工学部土木工学科卒、日建設計入社。2006年日建設計コンストラクション・マネジメントに転籍、09年同社へ転籍、24年より現職

写真＝木村 輝

「つなぐESG」で顧客企業を支援

建築分野のマネジメント・コンサルティングで得たノウハウを生かす。「つなぐESG」というサービス・パッケージで建築視点から顧客企業のESG戦略をサポートする。

—— ESGを支援するサービス「つなぐESG」が、3年目を迎えました。

清藤 建築プロジェクトを通じて企業のESGの取り組みを支援し、価値向上に貢献しています。最大の特徴は、社内独自の取り組みと事業を通じた対外的な支援を有機的にリンクさせていることです。例えば社内において、第三者認証評価を受けながら温室効果ガスの削減に組み、

実効性の高い経験とノウハウを蓄積しています。

本業のコンストラクション・マネジメントでは、全プロジェクトをサステナビリティの観点からレビューし、必要な施策を適用しています。ユニークな試みとしては、「木を切る活動」と「木を植える活動」の推進があります。

前者では森林を健やかに保つ活動

を体験して意識を高め、間伐材の有効利用に生かしています。『新林』と題した小冊子を刊行し、森林経営の啓発にも努めています。後者では、富士山麓で植樹事業を展開しているNPOに参加しています。毎年30～40人の社員が植樹を体験します。

最近の話題としては、2023年5月に実現した大阪オフィス「O3」をリニューアルし、今年国際的な健康建

ESGの取り組みを評価されたプロジェクト事例



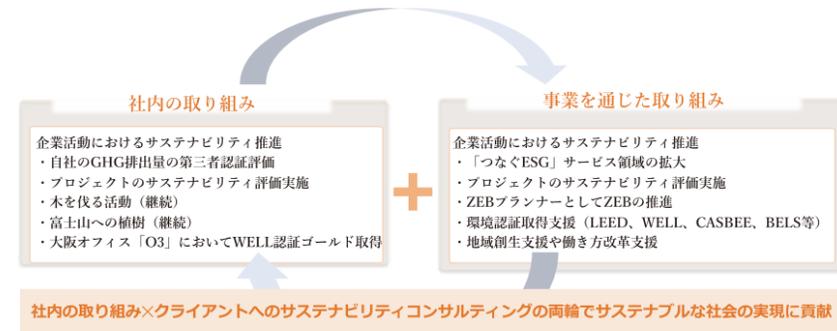
歴史的価値の高い木造建物を耐震改修した「祇園甲部歌舞練場」(左)。世界最大級(2020年3月稼働開始時点)の水素製造施設「福島水素エネルギー研究フィールド」*(右)

※本事業はNEDO*「水素社会構築技術開発事業/水素エネルギーシステム技術開発/再エネ利用水素システムの事業モデル構築と大規模実証に係る技術開発」の一環として実施しています。

(*) NEDO：国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

出所：日建設計コンストラクション・マネジメント

社内活動と対外的な企業支援をリンクさせたESGの取り組み



出所：日建設計コンストラクション・マネジメント

築認証プログラム「WELL 認証」のゴールドを取得しました。

また、当社の全てのプロジェクトでのサステナビリティ評価から得られた顧客ニーズや取り組み事例のノウハウを社外向けの提案に反映し、顧客企業のサステナビリティやESGを支援しています。

ESGについて、何から手を付けてよいか分からない企業もあります。その場合は、私たちが事業活動の全体像を調査し、それを基に「つなぐESG」のサービスメニューの中から最適な施策を選んでもらいます。ステークホルダー(利害関係者)への説明に必要なリソースを集め、実現に向けたプロセス全体を支援していきます。

日経ESG経営フォーラムが会員企業に取材し、制作したコンテンツです

最近増えているのが、「WELL」や「CASBEE(建築環境総合性能評価システム)」「LEED(米国発祥の環境性能評価システム)」などの認証取得のサポートです。

全社で活動事例を発表

——この1年で新たに増えたメニューはありますか。

清藤 大きく4つあります。「再生可能エネルギー事業の支援」「地方創生支援」「意匠権取得支援」「ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング)プランナーとしての支援」です。地方創生や働き方改革の支援としては、補助金取得の支援をはじめ、限界集落の復興支援等についてもプロボノ活動として支援をしながら

ら事業化を目指しています。また、23年にはZEBプランナーにも登録し、専門的な立場から建物の1次エネルギー削減を支援しています。

社会のニーズが年々変化し、テクノロジーの進化も速いため、支援メニューは常に変化しています。四半期に1度、サステナビリティ&ESGのチームが活動状況を全社に発表し、社員の意識を高めています。

—— ESG支援の活動は、どのような評価を受けていますか。

清藤 ESGの取り組みを評価されたプロジェクトでの受賞が増えています。

木造で歴史的価値の高い建物を耐震改修した「祇園甲部歌舞練場プロジェクト」は、国際コンストラクションプロジェクトマネジメント協会(ICPMA)主催の「ICPMA Awards 2024」で「Overall Project Achievement賞」を受賞しました。築100年超の大型木造劇場「祇園甲部歌舞練場」を、文化財登録を維持したまま耐震改修を行ない、再開業したプロジェクトです。「都をどり」という、世界的に価値の高い日本文化の継承に貢献できたと考えています。

20年3月の稼働開始時点では世界最大級だった水素製造施設「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)プロジェクト」(福島県浪江町)は、「ICPMA Awards 2022」で「DIST-INCTION ALLIANCE賞(優秀賞)」を受賞し、今年は韓国CM協会の賞もいただいています。

ESGに広く深く精通し、高い知見と職能を持つ専門家集団として、引き続き顧客企業のESGの取り組みを支援していきます。

聞き手：安達 功(日経BP 総合研究所フェロー) E